

来週の「売り物記事」はこれ



2018年9月14日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

元サラリーマン棋士の挑戦

「プロ」になる夢実現した瀬川晶司五段

16日(日)



2005年に戦後初めて行われた将棋のプロ編入試験に合格し、サラリーマンからプロ棋士になった瀬川晶司五段(48)。夢を諦めなかったその人生は、自伝を原作として7日に公開された映画「泣き虫しょったんの奇跡」でも描かれ、注目されています。

藤井聡太七段らが華々しい活躍をして脚光を浴びるかげで苦闘しつつ、将棋界の将来を見据える姿を



追いました。

筆者は統合デジタル取材センターの丸山進記者です。

大坂なおみ、凱旋Vなるか

東レ・パンパシフィック・オープン

スポーツ面など 17日(月)から

テニスの全米オープン女子シングルスで、日本選手初の4大会シングルス優勝を果たした大坂なおみ選手(日清食品)が、17日に東京・アリーナ立川立飛で開幕する「東レ・パンパシフィック・オープン」に出場します。

世界のトッププレーヤーが出場することで知られる大会だけに、大坂選手以外にも大会2連覇中のキャロライン・ウォズニアッキ選手(デンマーク)や昨年の全米オープン覇者、スローン・スティーブンス選手(米国)らが出場予定。世界の強豪と大坂選手との激闘を密着取材でお伝えします。

はたらく フリーアドレスで創造的に

くらしナビ面 17日(月)

決まった席をオフィスに作らない「フリーアドレス」を導入する企業が多くなっています。働く場所が変わるだけでなく、さまざまな効果があるそうです。

東京都内のバイオベンチャー企業に勤める男性は、その日の仕事内容や気分次第で場所を選び、「発想が切り替わり、良いアイデアを思いつく」。一方で、専門家は「コスト削減目的ではダメ」とクギを刺しています。

心揺さぶる歌 韓国歌謡史

夕刊特集ワイド 18日(火)

朝鮮半島の激動が続いています。いかなるドラマが待ち受けているか、かの地で暮らす庶民は知るよしもないです。でも、運命に翻弄されながら生きてきた彼らには歌がありました。

在日2世で、韓国大衆歌謡研究者の朴燦鎬(パクチャンホ)さん(75)がこの夏、全2巻800頁を超える「韓国歌謡史」(邑楽=おうらく=舎)を出版しました。

歌ににじむ悲しみ——。心揺さぶる歌への思いを、朴さんに聞きました。

マッチングという出会い方

くらしナビ面 19日(水)

インターネットを利用して恋愛や婚活を支援するサービスを使う人が増えています。男性と女性がそれぞれ個人情報を登録し、気に入った人がいれば「いいね！」などを押してマッチング（組み合わせ）する仕組みです。

利用者が累計で100万人を超えるサービスが国内には約10社あるそうです。サービスを使って結婚した東京都内のご夫妻を訪ねました。

論点 ジェンダーの壁

オピニオン面 19日(水)

東京医科大が女性受験生を一律に減点していたことや、自民党の杉田水脈衆院議員が性的少数者について「子どもを作らない、つまり『生産性がない』」と雑誌に寄稿したことが批判されています。他方、性別や性差の「常識」が急に変わったと戸惑い、今の流れを否定したがる空気も広がっています。

「性別」を巡る議論に横たわる「壁」の正体を探りました。

結核と梅毒

医療・福祉面 19日(水)

「過去の病」と思われがちな結核と梅毒が、国内で再び脅威になろうとしています。結核は、日本が結核患者の多い東南アジアから積極的に労働者を受け入れていることが背景にあります。インドネシアやベトナム、中国などの外国生まれの患者数は、この4年間で1.5倍に増えました。

また、梅毒患者数は2011年から急増し、去年は44年ぶりの高水準になりました。歓楽街のある大都市に限らず地方にも感染が広がり、性風俗と無縁の人も知らないうちに感染するケースが出ています。